

熊本県山都町・朝日（大矢）開拓

熊本県上益城郡清和村（現山都町）の朝日開拓は、阿蘇山の南に位置し、標高690～800^{メートル}の高地にある。西側には国指定重要文化財「通潤橋」がある。

地質は火山灰土で、波状形高原地帯である。地力が低く、スズ竹の繁茂により開墾作業が進まず、県内屈指の不振地区であった。

47（昭和22）年、熊本県開拓基地農場（開拓者の基幹養成と、開墾のための講習所）から入植設営のために数名が現地に入り、翌年10名が入植した。同年、富山県から十数名が入植している。

49年3月までに入植したのは30名だったが、離農したのが13名にのぼり、定着率は悪かった。しかし、残った人が少ない分、団結は強まっていった。

当初は、掘っ立て小屋の竹の床に草壁の住居で雨露をしのいだ。水の確保も大変で、小川の水を汲んできたが、雨が降ると濁って使えない。

初年度より朝日開拓農協が設立されたが、当地の開墾は困難を極めた。馬を導入してみたが、土が硬くて思うように耕せなかった。

陸稲、ジャガイモ、サツマイモなどを主食として栽培し、換金作物として菜種、陸稲、また裏作としてソバ、麦類の作付けを行ったが、十分な収穫は得られなかった。

50年に各戸に牛が導入され、農家所得の源をなした。また、65年に養蚕部門を導入し、営農不振からの脱却を目指す。そして72年から地力増進を目的に、開拓牛（乳用種去勢肥育）に取り組むことになる。

72年に地区名を「大矢区」に改名。農協は上益城郡の6単協が合併して「上益城開拓農業協同組合」となった。

現在、では9戸、肥育牛経営（3戸が肥後開拓農協組合員）と、野菜、おもに夏秋野菜（トマト、ピーマン）を栽培している。特にトマトは高冷地野菜として人気がある。

78年4月28日（現、昭和の日）に開拓30周年記念式典を行い、碑を建てた（写真）。以来、毎年（今はコロナ禍で中断）「開拓まつり」が盛大に開催されており、今後も開拓魂は引き継がれていく。

熊本県山都町・朝日（大矢）開拓

- ①調査日 2016年7月28日
- ②所 在 上益城郡山都町大字鶴ヶ田
- ③地区の沿革 上益城郡の最東部、阿蘇山の南に位置し、標高690～800米の波状形高原地帯。村有地、民有地275haが解放され、熊本県開拓基地農場（開拓者の基幹養成と開発のための講習所）出身者と県外入植として富山県より入植したが、定着率著しく悪く、広く県内外より入植した。波状高原地帯のため地力悪くスズ竹の繁茂により開墾作業も進展せず、県内屈指の不振地区として諸施策が実施された。
- ④設置年月日 昭和53年4月
- ⑤設置者 不明
- ⑥碑 名 入植30周年記念碑
- ⑦碑文（表面） 拓碑 開拓参拾周年記念 昭和二十三年二月異郷より此の地に住を移し三十年の四季を送る その間 風雪にたえ業を興し相助け励まして部落大矢を成す この偉業をたたえて碑を残し後世に伝える / 昭和五十三年四月 清和村長 平川 亘撰
- ⑧碑文（裏面） 記録 区長氏名 個人名
- ⑨現在の状況 標高700米の山あいを通る道路脇にあり、「記念碑の為の広場」というような印象で、管理されている。



